

乳がんの個別化医療、ゲノム医療の幕開けと画像診断の展望

Women's
Imaging
2020

企画協力：戸崎光宏 社会医療法人博愛会相良病院放射線科部長/
昭和大学医学部放射線医学講座客員教授

がんゲノム医療が本格的に始まりつつある中、2020年度の診療報酬改定では、遺伝性乳がん卵巣がん症候群（HBOC）患者へのリスク低減乳房切除術・乳房再建術などが保険適用されるなど、乳がん診療において大きな動きがありました。一方で、乳腺画像診断では、リングエコー装置などの新たな技術が登場し、臨床応用への期待も高まっています。そこで、本特集では、HBOCの保険収載を踏まえて、乳がんゲノム医療と乳腺画像診断医の役割について考える座談会のほか、ハイリスク女性に対するサーベイランスや最新の画像診断技術を取り上げます。

特集

Breast
Imaging
Vol. 15

Women's
Imaging
2020

I 総論

ゲノム情報に基づく予防医学における画像診断の役割について

戸崎 光宏 相良病院放射線科/
昭和大学医学部放射線医学講座

2020年4月から遺伝性乳がん卵巣がん症候群（hereditary breast and ovarian cancer syndrome：HBOC）の既発症者に対するリスク低減乳房切除術（risk-reducing mastectomy：RRM）・乳房再建術ならびにリスク低減卵管卵巣摘出術（risk-reducing salpingo-oophorectomy：RRSO）が保険収載された。がんの原因が明確になることでがんの予防が可能となるわけであり、非常に意義深い保険収載である。また、病気が見つからない未発症の臓器の予防切除が認めら

れた画期的な出来事と考えられる。

そして、リスク低減手術を選択しなかった場合には、乳房サーベイランス、卵巣サーベイランスが必須となる。そのため、HBOC既発症者の乳房サーベイランスとして、乳房MRIが保険で施行可能となった。このようなゲノム情報に基づく予防医学は今後急速に発展することは間違いなく、画像診断の役割は非常に重要である。本稿では、今回の保険収載から見えてくる今後の予防医学に対する画像診断の役割について解説したい。

ハイリスクサーベイランスの「ハイリスク」とは

2019年に出版した『乳房MRIを究める！——サーベイランスからMRIガイド下生検まで』¹⁾において、乳房MRIの適応について記述した項目がある。執筆当時から15年も前の欧米での乳房MRIの適応を、表として提示した。その中には、ハイリスク女性に対するサーベイランスが記述されている。つまり、日本では乳房MRIが術前広がり診断に有用か否かの議論をしている頃、欧米ではすでに予